

1 計画の概要

■下呂市観光計画とは？

下呂市観光計画は多くの市民、観光事業者の参加を得ながら、**5年間で行うべき観光施策**をまとめたものです。

経緯：第1期計画 期間（平成22年度～平成26年度）

第2期計画 期間（平成27年度～令和元年度）

第3期計画 期間（令和2年度～令和6年度）

■第4期計画の期間と目標

第4期計画は令和7年度を初年度とし、令和11年度を目標年次とする**5年間の計画**です。

受入体制・滞在環境等の向上、持続可能な観光地づくりにより、観光の価値を高め、地域経済を活性化させていくことを狙いとしています。計画に沿って事業展開し、適宜**成果の検証**を行いながら目標達成を目指すものです。

本計画では、年間**観光宿泊客数130万人**を目標としています。

4 下呂市の現状と課題

■ポストコロナ期の観光市場を的確にとらえ、宿泊者数と宿泊単価を上げ、地域経済を牽引。

令和元年度末から始まった新型コロナウイルスによるパンデミックにより、国内外の旅行市場が停滞し、令和2年度の下呂市の宿泊者数は548,929人と通常時の半分ほどまで減少しました。

その後、個人旅行者の取り込みに注力し、令和5年度には1,009,634人まで回復しています。

宿泊旅行者の消費が各産業に与える経済波及効果は大きく、幅広い産業の生産誘発に影響を与えています。引き続き宿泊客数、観光GDPの増加により、市内の経済を牽引することを目指します。

■新たな観光課題への対応

団体旅行から個人旅行へのシフトによる誘客戦略の変革や、インバウンドの増加等を起因としたオーバーツーリズム等、新たな観光課題への対応が必要となっています。下呂温泉街の混雑緩和に対するサインの見直しや案内ツールの導入など、そうした課題への迅速な対応に向け、宿泊税や入湯税の使途について検討を進めます。

下呂市と下呂温泉宿泊者数の推移



下呂市観光計画概要版

2 下呂市の概況と観光資源等

面積：851.21km² 人口：28,768人（R7.3.1現在）
沿革：平成16年3月1日に旧益田郡の萩原町、小坂町、下呂町、金山町、馬瀬村の4町1村が合併（当時の人口39,822人）

主な観光資源：下呂温泉、足湯めぐり、素肌美人スイーツ、下呂温泉合掌村、地歌舞伎、舞妓・芸妓（下呂地区）、御嶽山、蔵立峡、小坂温泉郷（小坂地区）、飛騨街道萩原宿、飛騨川公園、南ひだ健康道場（萩原地区）、金山巨石群、横谷峡、岩屋ダム（金山地区）、馬瀬川、里山ミュージアム（馬瀬地区）

食：飛騨牛、米、地酒、ケイちゃん、鮎、渓流魚、トマト、茶、蒟蒻、きのこ、あねかえし、朴葉寿司、ねずし、五平餅

体験・コ：和服散策、さるぼぼづくり、冬のライトアップ（下呂地区）、小坂の滝めぐり（小坂地区）、歴史探訪ツアー（萩原地区）、鮎釣り体験、火ぶり漁、アスレチック（馬瀬地区）、筋骨めぐり、蛸石ツアー、カヤック・SUP、ボルダリング（金山地区）

5 基本コンセプト・基本施策

下呂市を訪れるすべての人をおもてなしの心で迎える
ホスピタリティあふれるまちづくり

全体テーマ：ホスピタリティ都市宣言

- 市民が共通の意識を持ち、一体となってお客様をもてなすことができるホスピタリティあふれるまち
- 地域の自然や歴史・文化を理解し、次世代へ受け継ぎ、誇りを持って案内できる観光教育の充実
- 観光産業の地域経済への効果を測定し、市民の関心度・理解度を向上

1. 川・木・温泉でデザインする観光と日常の新機軸

- 飛騨街道を中心とした歴史的資源の掘り起こしによる景観ルールの策定と景観整備促進
- 空き家・空き店舗の活用による新たなにぎわいづくりに向けた制度・体制の整備
- 歴史的資源のリデザインによる河川空間の再生、イベント開催スペースの再検討

2. 観光振興団体による誘致促進の強化・支援

- 観光マネジメント体制の運用支援による、情報共有と合意形成の場の構築
- 客観的データを重視したマーケティングと効果的なプロモーションによる集客活動
- コンベンション誘致の促進、イベントを活用した効果的な誘致活動の強化

3. 観光客受入体制・滞在環境の整備

- 適切なサイン整備、観光DXツールの導入等による観光客の利便性向上
- 観光施設の適切な管理による観光客の滞在環境の快適化、満足度の向上とリピーター対策
- 農泊、ナイトエコノミー等の推進による多様な受け皿の整備、観光GDPの増加

4. 広域連携による多様な誘客活動の実施

- 県・国・近隣自治体・公民連携等のネットワーク強化
- 下呂市単独では成しえない都市部、海外等へ向けたプロモーション活動の実施
- リニア開通、アクセス整備等を見据えたハブ機能の強化、広域周遊ルートづくり

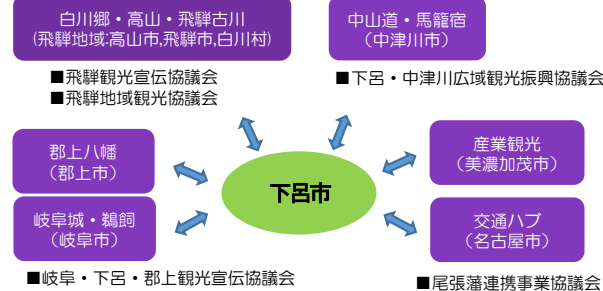
5. 横断的な連携による持続可能な観光地づくり

- エコツーリズムの推進による観光資源の保全及び周辺地域への波及効果の創出
- JSTS-D等の認証取得によるサステナブル destinations の確立
- 横断的な連携による関係人口の構築やアップサイクル事業等、持続可能な観光地づくりの推進

6. 国外誘客事業の促進（インバウンド）

- 国・県・近隣自治体・IPT（インバウンドプロジェクトチーム）と連携した国外誘客活動の実施
- 地域資源の魅力の深掘りによる高付加価値化や富裕層向けの高単価商品の開発
- 観光情報の多言語化による利便性の確保や災害時対応の確立

3 下呂市の広域観光の状況



- 上記以外の広域連携協議会等
 ■昇龍道プロジェクト推進協議会
 ■飛越能経済観光都市懇談会
 ■飛騨木曽川国定公園連絡協議会

■広域連携による誘客促進
様々な地域と連携しPRを実施することで旅行者に選択肢を与え、宿泊拠点としての機能を担う

